～～～

2020年度 対面リーディング利用状況報告

		分　　類	2020	2019
新聞・雑誌	１	新聞	１４	１８５
	２	総合雑誌	５	４２
	１２	鉄道雑誌・時刻表等	０	３
	１３	スポーツ・スポーツ誌（競馬・相撲雑誌等）	０	５
人文・地歴 哲学・社会	４	哲学･心理学・宗教	２	４７
	５	伝記・歴史・地理（旅行ガイド等を含む）	１０	６０
	６	社会科学（社会福祉・政治・経済・株式）	６	９１
文学・芸術	１４	芸術一般・芸能・音楽（楽譜等）	０	１５
	１６	文学・エッセイ	１３	２９１
	１７	短歌・俳句・川柳・詩	０	１
科学・医学 技術	７	東洋医学	０	１
	８	西洋医学	０	１
	９	数学・科学・物理・生物ほか	０	８
	１１	工学（コンピュータ・無線等）	０	２
資格・検定 語学	３	資格試験問題	０	２
	１５	語学（英会話・TOEIC等）・外国語	８	１０３
生活一般	１０	家事・育児・料理	０	３
	１８	各種取扱説明書（携帯電話等）	０	４
	１９	チラシ・手紙・ＤＭ・パンフレット等	２０	３９
その他	２０	代筆	１７	４５
	２１	コンピュータ補助（データ修正等）	３	４５
	２２	その他	３	１４
合　　計			１０１	１００７
		延利用件数	６６	６１２

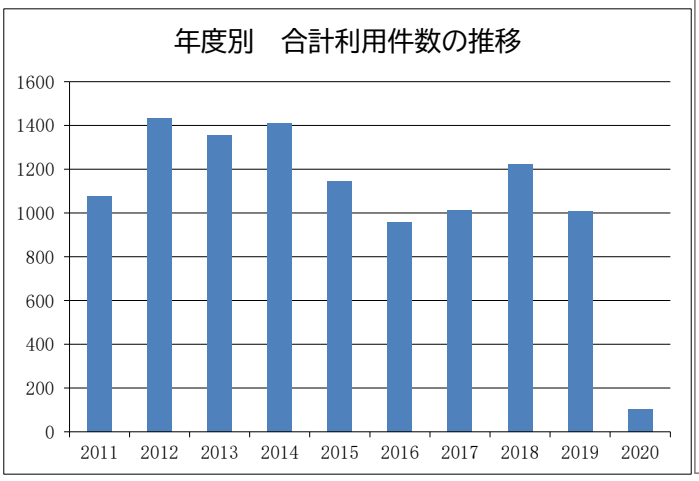
年度別利用ベスト５

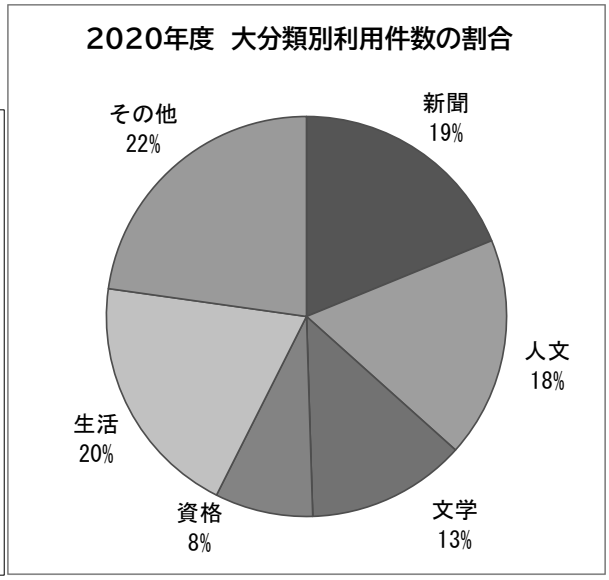
※2020年度は10月中旬～12月初旬と3月中旬～3月末に対面を実施

2020年度	2019年度	2018年度
① チラシ・手紙など ② 代筆・その他 ③ 新聞 ④ 文学・エッセイ ⑤ 伝記・歴史・地理	① 文学・エッセイ ② 新聞 ③ 語学・外国語 ④ 社会科学 ⑤ 伝記・歴史・地理	① 文学・エッセイ ② 新聞 ③ 伝記・歴史・地理 ④ 語学・外国語 ⑤ 社会科学

2017年度	2016年度	2015年度
① 文学・エッセイ ② 新聞 ③ 語学・外国語 ④ 社会科学 ⑤ 代筆・その他	① 文学・エッセイ ② 新聞 ③ 語学・外国語 ④ 社会科学 ⑤ コンピューター補助	① 文学・エッセイ ② 新聞 ③ 語学・外国語 ④ 資格試験問題 ⑤ 社会科学

2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	分類
１９８	１９２	１６９	１７７	２４６	１８０	１４３	６７	１
７５	２５	２３	３２	４６	６８	９６	８５	２
１	１	０	２	２	１１	３	１	１２
１１	１１	１５	３６	２６	４３	３３	１３	１３
１９	７	８	４１	３０	２９	３０	１９	４
１１１	４７	４５	４５	５１	８４	５９	３０	５
７９	６９	８３	６９	４１	１０１	９２	１９３	６
３１	１９	２０	３４	４９	２９	５６	３９	１４
３１０	３２０	２６０	２９５	３７９	３３７	２６４	１２９	１６
０	１	３	２	０	６	２１	１７	１７
４７	３８	２	３	１	２	０	５	７
２１	７	３	９	６	２	５	３	８
３	０	１	１	３	１４	１３	４	９
５	０	１	３	３	１	１	４	１１
２７	１１	３	９４	２４４	１４５	２９７	１６４	３
８７	９３	１３３	１２４	１２３	１２０	１４５	１６７	１５
３	４	０	４	５	９	３	２	１０
４	４	６	５	１６	８	９	９	１８
５４	４５	４９	４９	６９	８３	９８	８２	１９
６０	６４	６３	６５	５７	７４	４３	３６	２０
６７	５２	６５	５５	１１	９	１７	３	２１
８	４	４	１	２	０	５	５	２２
１２２１	１０１４	９５６	１１４６	１４１０	１３５５	１４３３	１０７７	
７８８	６９１	６２６	７７６	９９９	１０８３	１０４９	１０４３	





木村（きむら） 謹治（きんじ）

対面リーディングの実際 44

― 喉（のど）を開く ―

音読や声楽で喉を開けなさいと言われますが、そもそも喉を開けるとはどういう事なのでしょうか？

声楽とも共通点が沢山あります。歌を楽しむ時のレッスンも兼ねて考えていきましょう。

喉を開くとは？

喉を開くと言われて、口を大きく開ける人がいますが、それは違います。もちろん、口をしっかりと開けることも大事ですが、喉を開くとは異なります。喉を開くというのは、「口の奥」をしっかりとあけて声を出すということです。まさに喉の部分のスペースを広くあけた上で声を出すのです。

「そんなの歌うときにはできてるんじゃないの？」と思うかもしれませんが、意外と多くの人ができていません。喉の奥のスペースをしっかりと確保しながら音読したり歌うというのは、簡単ではないのです。多くの場合、喉仏や舌が邪魔になって喉の奥のスペースを塞いでしまうことが多いです。

もう一つ誤解があるのは、声帯を閉じて声を出すという事です。「声帯って開いた方がいいんじゃないですか？」と思われることがあります。

でも声帯は閉じるんです。閉じて振動させることで声を出せます。声帯が開いていると、息しか出ません。

それでは、なぜ喉を開く必要があるのでしょうか。喉を開くということは、喉の奥のスペースを確保することです。

声を出すには、ある程度声を張らないといけない場面があります。喉が開いていない状態、すなわち喉のスペースが狭い状態で発声しようとすると、かなり喉や声帯に力を入れなければいけないことが想像つきます。

無理に声を出そうとすると、その結果、喉や声帯に大きな負担がかかり、ケガにつながってしまうこともあります。

それに対して、喉をしっかりと開き、喉の奥のスペースを確保した状態で声を出すことができれば、多くの息を一度に吐き出すことが可能なので、小さい力で大きな声を出すことが可能になります。どちらが喉のために良いのかは明らかですよね。

しかし、喉を開いて声を出すというのは簡単にできることではありません。毎日の練習から意識することで、少しずつ喉のスペースを確保することができるようになります。

舌の使い方によっては、喉を開くのを妨ぐ場合があります。それを避けるために、舌根を下げ、喉の奥のスペースを確保するのです。とは言っても、力で無理やり舌根を下げれば良いわけではありません。それ以前に、力を入れて舌根を下げることはできないでしょう。力を入れることなく、自然に下がるものです。

眠気が差すと、あくびをする事がありますね。このあくびの仕草が喉が開いている状態にあたります。あくびで息を吸っている時というのは喉が100％開いている状態です。あくびをした時の口の奥の感覚を思い出して下さい。確かに口の奥に大きな空洞が出来ていますね。

イメージするだけでは分かりづらいという人は、実際にあくびをしてみてもいいかもしれません。

また、物理的に確認する方法としては、喉仏を手で触ることです。あくびで息を吸うと喉仏が下へ下がります。この状態が喉が開い

ている状態です。（［注］喉が開いていても発声をすると喉仏は物理的には少し上へ上がります。高い声になればなる程、喉仏が上がって行きます。）

あくびをしてみると、舌は口の中でも下のほうに追いやられ、喉の奥が一気に広がる感じがしませんか？その感覚が、まさに「喉が開いた」状態ということです。

でも、誤解しないでくださいね。「喉を開いて」と言われると、あくびのような声がいいのかな？と思いがちですが、それはあくまでイメージです。

レッスン中に「あくびみたいに太い声出して歌ってみて～、或いは読んで～」と言われる事があるかもしれませんが、それはあえて喉を違う状態に持っていきたいときや、喉が閉まるのを防ぐためのアドバイスです。

実際あくびの状態で音読したり、歌うわけではありません。

声は一人一人違うので、ギューと締まった状態でなければいいのであって、決してあくびの時のような声を目指しているのではなく、もっと自然に声が使えればいいいわけです。

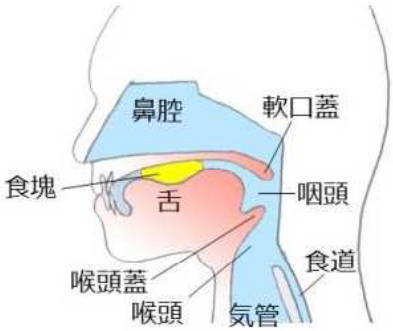
あくびのボイストレーニングは、あえて喉を開くことで　喉の力をとったり、喉仏をキープしたり、胸骨甲状筋を鍛えるというか柔軟にするためのものです。

喉が開いていると、声が豊かに共鳴するため、芯のある大きな声を出せるようになります。喉を開くことで息の通り道が広がるため、たくさんの息を一度に吐き出すことが出来、大きな声を出せるようになるのです。

芯のある声というのは、歌に限らず日常会話でも説得力のある声、声の向かう先が明確な声に聞こえます。大きな声を出すのが苦手な方は、声を出すとき、無意識に喉を閉じ気味にして喉声で話してしまう傾向があります。喉を開く練習をすることで話し声が良くなります。

頭では理解しやすいものの、いざやってみようとした時になかなか出来ないのは「どの感覚が喉が開いている状態なのか」体感で理解していないからです。

喉を開くことで、口の中の空間（口腔／こうくう）が広がります。また、同時に舌の根元のあたり、喉仏に近い空間（咽頭腔／いんとうくう）も広がります。この空間のことを「共鳴腔（きょうめいくう）」と言いますがざっくりと「声が響くところ」と捉えていただければ大丈夫です！



口腔と咽頭腔が広がることで、声帯の振動によって出来た「声の素となる音」が身体に上手く反響し、楽に声を出せるようになるのです。

また、楽に声を出せることで喉が疲れにくくなります。

さらに、喉や口の中が開けていることで、声がしっかりと共鳴し、抜けの良い音色や明るい音色の声を出るようになります。

声が通りにくいと思っている方の中には、実は声量というよりも音色が暗いために声が通りにくくなっている人が多いのです。

抜けの良い、明るい音色の声というのは、歌に限らず日常会話でも元気な印象、快活な印象を与えることが出来るので、あなたのイメージが変わるかもしれませんね。

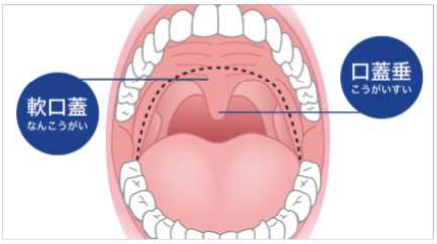
喉を開くことは、良い声を出す上でとても重要なのです。

■喉を開くためのコツ

喉を開くためには、まずは自分の喉がどのように閉じているのかを自覚する必要があります。喉が閉じているのは、喉が上下に開けていないケースと左右に開けていないケースの大きく分けて２つです。

１．「喉が上下に開けていない」場合

喉仏が上がって、首や顎などに力が入ってしまっています。響きの弱い幼い声で、かたくて浅い声にもなります。必要な力が入っていないので暗くて不機嫌そうな声にもなってしまいます。



上下に開けていない場合は、軟口蓋を引き上げて、喉仏を引き下げる必要があります。

舌で、上の歯から口の奥の方へなぞっていくと、柔らかくなる部分があります。それを軟口蓋と言いますが、その軟口蓋を引き上げていきます。

軟口蓋を引き上げるというのは、喉の状態を「あくびをしている時の喉の状態」にして声を出すイメージです。また、左右の奥歯で噛む動作は、喉が上下に開きます。

有名な練習の一つに、割り箸を奥歯で噛みながら声を出すというトレーニングがあります。また、滑舌の練習にもなります。

まずは、割っていない割り箸二膳を用意します。そして割り箸を縦にした状態で、左右の奥歯で軽く噛みます。

割り箸を軽く噛んだ状態で「あーーー」っと発声をします。この時の「あー」は、ロングトーンでなるべく長く発声します。

次は割り箸を外し、普通の状態で同じく「あーーー」っと発声します。

どうですか？　割り箸を噛んだ状態と、割り箸を外した状態で違いは感じられましたか？　発声した時の喉の開き具合、発声が違っていることを感じることができたでしょうか？

割り箸を噛み、喉を開くことになれたら、割り箸を外して声を出してみてください。割り箸がなくても、喉の奥に空間を作る意識を忘れないことが重要です。

すぐわからなくても、焦らないで下さい。よくわからなかったという人は、違いを感じられるまで何度か繰り返して行ってみてください。必ずわかるようになります。

この方法で、喉の開きを実感する事ができます。

割り箸を奥歯で噛みながら声を出すという事は舌が喉を塞ぐことができないため、無理やりではありますが、喉の奥に広い空間ができていると思います。その状態が、「喉が開いている」状態です。

喉を開けるためのトレーニングは、喉を開く筋肉をコントロールするトレーニングになり、また、音程をコントロールする筋肉も鍛えることができます。

このトレーニングをやりすぎると「嚥下障害」になってしまう可能性があるので気をつけて下さい。

また、表情筋を正しく使うことができると、無理なく喉が上下に開きます。目を見開く、鼻の穴を開く、口角を上げるというのが発声の基本です。

舌出し発声

これは舌の力を抜きつつ、長い舌の適度な置き場所や力感をつかむための練習です。

まず、舌を「べーーー」と、なるべく口の外へ向けて突き出してみてください。

次に、舌を出したまま力をゆるめて「あーーー」と、出しやすい高さで声を出してみてください。

そして、ここで舌を出したままあくびをしてみましょう。するフリで大丈夫ですからね！

あくびの形を保ったまま再び「あーーー」と声を出すと・・・あら不思議！口の中が持ち上がったり、奥の方が広がったまま声が楽に出たのではないでしょうか？　舌の位置や力感が変わることで、口の中や喉の空間が広がり、声を出しやすくなるのです。

笑いながら歌う

喉を開くための次の方法は、「笑いながら歌う」ということです。これは、ボイストレーニング教室などでも実際に行われている練習方法です。普段あまり大きな声を出さない人でも、笑ったときに想像以上に大きな声が出てしまった経験のある人はいませんか？
それは、「笑う」という行為が、もっとも喉を開く行為だからです。そのため、笑いながら歌うことによって、喉を開いて歌う感覚をつかみやすくなります。しかし、笑いながら歌う場合、長い時間は続きませんので、短いフレーズや発声を何度も行うほうが効果的です。また、笑いながらは難しいという場合は、口角を上げながら歌うだけでも効果はあります。

その他の練習方法として、下記の方法もあります。

驚く

ハッ！とびっくりしてください。（無声で構いません）自然にかつ本気でびっくりすればするほど正しく喉が開きます。意外ですね。

うがいをする

昔からうがいで発声練習というのがよく民間で行われていましたが、十分な効果があると考えられます。

発声練習の他に、健康にも役立つので、朝起きた時とか、外から帰った時など、うがいをするのは有効です。

パインアメ

ドーナツ状に穴の開いたお菓子の「パインアメ」を使う練習も非常に効果的です。

パインアメの穴が正面に来るように口にくわえ、そのまま声を出してみましょう。パインアメをくわえることで奥歯を噛みしめづらくなり、舌根が下がります。

発声練習だけでなく、歌を歌う時にも使えるので、応用が利くのも魅力です。

タングトリル

「タングトリル」という練習法は喉を開くだけでなく、筋肉をリラックスさせたり、裏声のトレーニングにも最適です。

タングトリルとは、簡単にいうと巻き舌のことです。

まず、口を開いて舌を上の歯の裏あたり（ら行を発音する時ぐらいの位置）に置きましょう。そして息を吐き、舌先を振動させると、タングトリルができます。

舌先に力を入れず、息の量を一定に保つことがコツです。10秒以上続けることができ、音程を正確につけられるようになったら完璧ですよ。

Be-Vo

ボイストレーニング器具「Be-Vo」を使うと、割りばしを使ったトレーニングよりもさらに練習のバリエーションが増えるでしょう。

ボイトレグッズの中でも分厚い素材で、くわえやすいのが特徴です。

背中を意識する

背中を意識すると喉が開きやすくなります。体の後方を意識することで、無駄な力が抜けて喉も楽になります。

反対に、体の前方を意識してしまうと喉が締まり、響きの少ない弱々しい声になってしまうので注意しましょう。

息を吸う時に背中を丸め、声を出す時に背中を広げるイメージで歌うと上手くいきやすいですよ。

２．「喉が左右に開けていない」場合

声に雑音が混ざったり、母音が濁ってしまいます。歯を食いしばったときに見える筋が、発声している時に常に浮き出ている状態になります。

首の力みをとるため、左右に首を軽く振って声を出す練習が有名です。声を出す前に入念なストレッチをするのも効果的です。

眉間にしわが寄ったり、口角が下がって口の形が三角形になると、喉が力んで固まってしまいやすいです。力んでしまう人には、無理に力を入れなくても声が出る、という実感が必要です。

喉を開く発声は、感覚でしか説明できないことも多々あるので難易度は高めです。

喉に関する知識も大切です。知ることのよりイメージが明確になっていきます。

一度に全部を達成しようとしても最初は難しいはずです。ひとつひとつを正確に出来るようにして、喉を開くことに慣れてできるようになるまで頑張って下さい。

参考

・MUSIC PLANET
・ChihiRo ボーカルスクール
・VOCAL ACADEMY OF TOKYO
・カラオケ UtaTen
・Voi-tore

寄り道・回り道

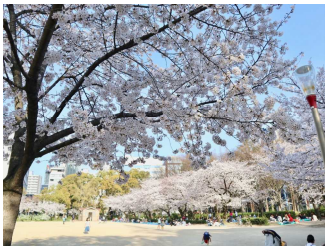
レポーター：木村（きむら） 謹治（きんじ）

大塩平八郎終焉の地　靭公園

【所在地】大阪府大阪市西区靭本町１丁目１８
【行き方】Osaka Metro 四つ橋線肥後橋駅 ７番 or 8番出口より南へ徒歩13分

今年も花見を楽しみましたか？　近ごろは桜の名所に行かなくても、身近に楽しめる所が増えてきましたね。

岡本かの子さんは「桜ばないのちーぱいに咲くからに　生命（いのち）をかけてわが眺めたり」と読まれています。



それに引き替え、図書館で働いていた頃は、ビールと酒のあてを買って、ほんのり桜色。

ビニールシートを敷いて、美味しそうな御馳走を広げて、気炎を上げているグループもあちこちに見られました。

そんな靭公園に「大塩平八郎終焉の地」の碑が建っています。

もともとは、公園の側（そば）にある天理教教会前に建っていました。しかし、教会建て替えのため靱公園内に移設することになったのです。

移転のための募金をお願いしている大塩事件研究会の「碑の移設にかかる募金の趣意書」には以下のように書かれています。

「大塩平八郎終焉の地」碑は、平成9年（1997）9月27日、大塩平八郎の乱160周年記念事業として建てられたものです。幅224センチ、縦113センチの大きな黒御影石の碑には、つぎのように記されています。

大塩平八郎中斎（ちゅうさい：1793～1837）は、江戸時代後期大坂町奉行所の与力で、陽明学者としても知られ、世を治める者の政治姿勢を問い、民衆の師父と慕われた。天保8年（1837）2月19日、飢饉にあえぐ民衆を救い、政治腐敗の根源を断とうとして、門人の武士・農民を率いて決起した。

乱後大塩平八郎・格之助（かくのすけ）父子はこの地に隣接した靭油掛町（うつぼあぶらかけちょう）の美吉屋五郎兵衛宅に潜伏したが、同年3月27日幕吏の包囲のうちに自焼して果てた。民衆に呼びかけた檄文は、密かに書き写され、全国にその挙を伝えた。大塩の行動は新しい時代の訪れを告げるものであり、その名は語り継がれ、志は今もなお大阪市民の中に生きている。

決起160年に当たり、全国の篤志を仰いでここに建碑（けんぴ）する。

朝日新聞に以下のような記事が記載されています。

大塩平八郎 もっと知って

「終焉の地」石碑 靭公園に移設

天保の大飢饉に見舞われた江戸時代末期、民衆を飢えから救おうと決起した大塩平八郎（1793～1837）の最期の地近くに立っていた石碑が、大阪市西区の靱公園に移設された。元々あった場所に立つ建物の改築に伴い、地元町会などの協力で実現。現在も移設費用の寄付を募っている。

飢え救おうと決起

大坂東町奉行所の元与力で、陽明学者でもあった大塩は、飢死者が続出した飢饉のまっただ中の1837（天保８）年、何ら対策を講じない幕政を糾弾し、苦しむ民衆の救済を掲げて、門弟や農民ら約300人と決起。１日足らずで鎮圧され、大坂の町は約５分の１が焼けた。その後、大塩は現在の西区靱本町に潜伏したが、約40日後に幕吏に取り囲まれて自決した。

石碑は「大塩平八郎終焉の地」と刻まれ、横２.24㍍、高さ１.13㍍。大塩の経歴や乱の概要を説明し、「大塩の行動は新しい時代の訪れを告げるものであり、その名は今もなお大阪市民に語り継がれている」などと刻まれている。

作ったのは、大塩平八郎の乱の研究をしている「大塩事件研究会」。大学教授や歴史愛好家ら全国約120人の会員がいる。乱から160年が経つ1997年に、同区の天理教飯大分教会の敷地内に建てた。

同教会の改築に伴い、研究会が地元の町連合振興町会や公園を管理する大阪市と相談。市の許可を得て、100㍍あまり離れた靱公園への移設が決まった。

当初約200万円と見積もられた移設費用をまかなうため、昨年12月から寄付を募った。200人以上から寄付金が集まり、３月に移設工事自体は完了した。現在も、新たに作った石碑横の案内板の費用などのため、引き続き寄付を受け付けている。

研究会、費用募る

「大塩平八郎終焉の地」石碑の移設

大火起こし批判も

大火を引き起こした大塩平八郎の乱については、批判もあるという。同研究会の会長で、兵庫県立歴史博物館長も務める藪田貫さん（73）は、「移設を機に大塩平八郎のことをより多くの世代に知ってもらい、時間をかけて研究を深めていきたい」と話した。

移設費用の寄付は５月末まで受け付ける。詳細は研究会のブログ（http://oosio-jiken-kenkyuu.cocolog-nifty.com/blog/）で見られる。問い合わせは研究会の内田正雄事務局長（06・6877・2690）。（恵田剛紀）

大塩家は今川氏の末流で、代々大坂東町奉行組与力を務めていました。平八郎は初代の大塩六兵衛成一から数えて8代目にあたります。

25歳で与力となった平八郎は、謹厳実直な人物として不正を次々と暴き、西町奉行同心弓削新左衛門の汚職事件では内部告発を行い、

その辣腕ぶりは市民の尊敬を集めたが、腐敗した奉行所内では大塩に反発するものも多くいました。

洗心洞時代の大塩平八郎
（大阪城天守閣所蔵）

天保（てんぽう）期に入ると、毎年のように凶作に見舞われ、1832（天保3）～33（天保4）年には収穫が平年の半分以下となり、厳しい飢饉となりました（天保の飢饉）。農村や都市の百姓一揆・打ちこわしが年間で100件を超え、江戸時代の百姓一揆発生件数のピークとなったのです。

1836（天保7）年の飢饉はとくに厳しく、甲斐国都留郡（当時、郡内（ぐんない）と呼ばれた）でおこった郡内騒動は、80カ村1万人が蜂起し、豪農・豪商宅を打ちこわして甲府に迫り、三河加茂郡の加茂一揆も、240カ村12,000人が蜂起した大規模な一揆でした。ともに幕領での一揆であることから、幕府は衝撃を受けた。

大坂でも飢饉の影響は大きく、餓死者が相継ぎました。しかし、富商らは米を買い占めて暴利を得、大坂町奉行所は救済策をとるどころか、幕府の指示により大坂の米を大量に江戸に廻送していたのです。大坂町奉行所の元与力で陽明学者の平八郎は、5万冊に及ぶ自らの蔵書を全て売り払い、600数十両を窮民救済にあてるなどしました。が、これを奉行所は売名行為と強く非難したのです。

この状況に怒り、窮民の救済と幕政の根本的な転換をかかげ、家塾洗心洞（せんしんどう）の門弟や民衆を動員して武装蜂起（大塩の乱）をしたのです。大塩勢は大砲を撃ち、富商宅を焼き、市中に火を放ちながら進軍したものの、幕府軍により半日で鎮圧されました。幕府の重要な直轄都市である大坂でしかも幕府の元役人が公然と反乱をおこしたことは、幕府や諸藩などに強い衝撃を与え、この事件の風聞は全国各地に広がり、その影響は広く深く幕府や民衆に与えました。同年に国学者の生田万（いくたよろず）が大塩門弟と称して越後柏崎の桑名藩陣屋を襲い（生田万の乱）、摂津能勢郡でも「大塩味方」をかかげた一揆がおこり、江戸でも「大塩余党」の蜂起が予告されたり、不穏な情勢が続いていました。江戸では、幕府が「お救い小屋」を建てて窮民を収容したり、寛政の改革で設けた江戸町会所の備蓄米・銭を与えるなどして、かろうじて打ちこわしなどを未然に防いだのです。

群衆にまぎれて逃走した大塩と格之助は靭油掛町（現在の西区靭本町）の染物職人・美吉屋五郎兵衛宅に潜伏するが、40日後の3月27日、所在を突き止められ二人は爆薬を抱え自決した。享年、平八郎44、格之助27でした。

地図を片手に大塩平八郎の足跡を訪ねてみませんか。

洗心洞／せんしんどう

大塩平八郎が現在の大阪市北区の天満一丁目の地に開いた私塾であり、洗心洞跡碑が造幣局の官舎内に建てられている。その名は易経の「自利私欲を洗い去る」に因んだ。

成正寺本堂前の **大塩父子の墓**

大塩平八郎・格之助の墓（成正寺）

大塩の乱に殉じた人びとの碑
（成正寺）

左：**東町奉行所跡**（大阪合同庁舎１号館前）
右：**大塩の乱「槐**（えんじゅ）**」跡碑**

槐跡碑は北区天満1-25国道１号線沿いにある。

造幣局北門前の槐の古木は、高さ約10m、樹齢約200年でした。大塩の反乱は大砲の砲撃から始り、最初の一発がその木にあたったのです。が、その後も槐は生き続けました。しかし、排気ガスの影響で傷み、幹が空洞になって危険なため伐採されてしまいました。

心のふるさと ～ムーミン谷～

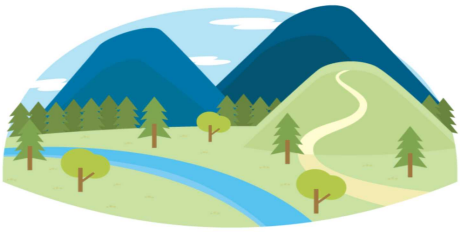
図書・情報係　藤岡（ふじおか）　亜希子（あきこ）

大阪生まれの大阪・守口市育ちですが、私にとって心のふるさとは…“ムーミン谷”です。と、いうことで、今回は長年好きで憧れでもある“ムーミン谷”に関する話題についてお話させていただこうと思います。

おそらく、日本では知らないひとはいないはず（？！）のムーミン。発祥はフィンランドですが、日本でもアニメなど放送されていました。「キャラクターはなんとなく知ってる」という方もおられる事と思います。

好きになったきっかけは、可愛らしくて癒されそうなキャラクターと、アニメを観て好きになりました。その後、小説やマンガや絵本などに触れていくうちに、どんどんムーミンの世界観の奥深さ（=ユーモアなところ・哲学的なところもあって考えさせられる等）を知り、ますます好きになりました。

ファンクラブにも入っていまして、会員番号兼ムーミン谷住民票の住所は、『ムーミン谷小鳥の小道　１３番』。この住所は、もちろん…架空の住所です。ムーミンファンクラブの会員特典の一つとして、「ムーミン谷住民票の証明を与えてもらえる」というのがありまして…。ムーミン谷に住んでみたいなという想いを抱くファンにとっては夢のようなうれしい特典なのであります。



ムーミン谷にはたくさんのキャラクターが住んでいますが、見た目や考え方がそれぞれ違います。長所と短所は紙一重。どのキャラクターも愛くるしく思えてきます。

今の時代はLINEやSNSですぐに人と繋がる事が主流になっていますが、ムーミン谷では、『お互いに心地よい距離感を大切にしながら、寄り添いあったり、あるがままに受け入れてくれる。相手を想いながら待つ季節があったり、お互いの想いが届く距離を知っている。』、他には『どんなハプニングや何気ない日々の日常をもユーモアに変える。』等…そんな印象を受けます。

2019年３月、埼玉県飯能（はんのう）市に『ムーミンバレーパーク』が誕生しました。北欧童画ムーミンの世界を体験できるそうです。いつか行ってみたいです。

余談ですが…、約３年前に発売されたデアゴスティーニ『週刊ムーミンハウスをつくる』という、ミニチュアのムーミンハウスがつくれるキットを購入しましたが、まだまだ未完成…

ミニチュアのムーミンハウス完成までの道のりは程遠いですが、今後も少しずつ…ぼちぼち楽しみながらがんばりたいと思います。

漢字あれこれ（その３）

対面リーディングボランティア　澤井（さわい） 稔（みのる）

その①　唐人読み

鎌倉時代から江戸時代に、当時の中国人(唐人)を通じて、主に生活用品の名称等として日本語の中に定着していった読み。

①明朝体(みんちょうたい)=新聞や雑誌でおなじみの漢字の書体。
②胡乱(うろん)=態度等が怪しい事。胡散臭い(うさんくさい)事。
③塔頭(たっちゅう)=塔のそばに建てた小さな寺。もとは高僧の墓を弟子が守った所。
④卓袱料理(しっぽくりょうり)=中国風の食卓。長崎名物。卓袱台の場合は(ちゃぶだい)と読む。
⑤行灯(あんどん)=木のわくに紙を貼り、中に油皿を入れて灯火をともす道具。
⑥行火(あんか)=炭火を入れて手足をあたためる道具。
⑦脚立(きゃたつ)=はしごに似た踏み台。
⑧剽軽(ひょうきん)=気軽明朗であって滑稽な事。おどけ。
⑨蒸籠(せいろう)=食物を蒸す器具。(せいろ)とも。
⑩脚絆(きゃはん)=膝から下の足に巻く布。「脚絆を結ぶ」は旅支度をするという意味。
⑪お侠(おきゃん)=若い女の行動や態度が活発で軽はずみなところがある事。おてんば。
⑫行宮(あんぐう)=天皇行幸の時の仮の宮居。かりみや。行在所(あんざいしょ)。
⑬暖簾(のれん)
⑭払子(ほっす)=長い獣毛を束ね、これに柄を付けた法具。
⑮普請(ふしん)=建築・土木の工事。もとは人を集めてお寺の堂塔の建築に従事してもらう事。
⑯綸子(りんず)=通常は綸子縮緬(りんずちりめん)の略で、タテ・ヨコともに生糸を用い、製織後に製錬した、滑らかで光沢と粘り気がある染め生地。
⑰水団(すいとん)=小麦粉を水でこね、団子大にし、汁で煮たもの。
⑱杏子(あんず)=中国原産のバラ科の果樹。
⑲外郎(ういろう)=もとは元の時代、中国から日本に渡来した人が九州博多に住んで創製した薬。今は菓子の名前。米粉・砂糖等を混ぜて蒸したもの。山口、名古屋、伊勢の名物。

その②　漢文読み

外交文書等は、表現が難しい場合が多々あります。例えば「就中（なかんずく）」で「なかでもとりわけ」の意味です。候（そうろう）文では、「被下度（くだされたく）」という具合です。このような格式張った漢文風の難解用語をまとめて漢文読みと呼んでみましょう。

①所謂(いわゆる)=世間で言われている。俗に言う。
②所以(ゆえん)=理由。わけ。いわれ。
③為人(ひととなり)=生まれつきの人柄。もちまえ。天性。からだつき。背丈。
④為体(ていたらく)=すがた。ありさま。(非難の意をこめて用いる)ざま。
⑤為替(かわせ)=取り交わす事。ひきかえ。交換。手形・小切手・証書によって送金を処理する方法又はその総称。外為は(がいため)。
⑥親不知(おやしらず)=孤児となって、生みの親の顔を知らない事、又その子。新潟県の海岸にある通行の難所。親不知歯の事で第三大臼歯。
⑦不知火(しらぬい)=九州の有明海等で、夜間ちらちらと現れる火や明りの事。
⑧不見転(みずてん)=見通しもなしに行動する事。出たとこ勝負。元は客にたやすく情を売る芸妓の事。
⑨勿忘草(わすれなぐさ)=ムラサキ科の多年草。
⑩勿来関(なこそのせき)=古代から歌枕となっている関所の一つ。奥州三関の一つに数えられ、所在地は諸説ある。
⑪蒙御免(ごめんこうむる)=相手の人、周囲の人々の許しを得る。ことわる。いやである。

漢字離れが進む中、ワープロひとつ使いこなすにも、漢字の読み方と使い方の知識が必要になります。折に触れて書物を読んでいれば、自然と身につくはずの“漢字の読み”も、そう悠長に考えてもいられない毎日です。忘れていた読みを思い出すお手伝いになれば幸いです。

おしらせ

・情報文化センターのホームページをご確認ください

対面リーディングは緊急事態宣言の発出時や大阪モデルの赤信号点灯時には基本的に休止いたしますが、状況は日々流動的です。情報文化センターのホームページでは状況の変化に応じた当館の対応をお知らせしています。ぜひご確認ください。

・本館5階サービスフロアの名称が変わりました

本館5階サービスフロアは今年開設20周年を迎えました。それを記念して、オープン時の「エンジョイ！グッズサロン」という名称をフロアの愛称として復活、使用していくこととなりました。また、新たにシンボルデザインとロゴを作製し、それをあしらったグッズの販売も開始しています。詳しくは情報文化センターホームページをご覧ください。
これからも、皆さんと私たちと手を取り合い、支えあいの輪が広がっていきますように。

いよいよコロナウイルスのワクチン接種が始まりました。とはいえ自分が打つのはいつの事になるのやら。「もう終息してるやん！」となってるといいのですが…。(F)

日本ライトハウス 情報文化センター
550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2
06-6136-7704（対面専用）
06-6441-0039（サービス部）